

第20回記念(栃木県宇都宮市) 日本認知症グループホーム全国大会

2018.5.14 大会実行委員会ニュースNO.2 TEL 03-5366-2157

演題募集開始しました！締切は6月11日(月)です！

先日、会員の皆さまに第20回記念日本認知症グループホーム全国大会の開催案内(パンフレット)をお送りしていますが、ご覧いただけましたでしょうか？

今年の全国大会では、分科会・ポスターセッションの発表時間が従来の発表8分・質疑応答2分の合計10分から、発表10分・質疑応答5分と十分な時間を取るようにいたしました！この全国で発表する機会に、数多くの皆様からのご応募をお待ちしております。なお、予定演題数に達し次第、募集を締め切らせていただきますので、発表をご希望の方はお早目に発表申込をしてください。

番号	演題募集テーマ：演題の趣旨・背景	キーワード
1	住み慣れた地域で「その人らしさ」を大切にしたい認知症グループホームケア。「認知症の人の生活の全てに寄り添い」「認知症の進行を遅らせ」「認知症の人のBPSDの改善につなげ」「認知症の人のQOLの維持・向上につなげる」認知症グループホームの素晴らしい取組、また若年性認知症の人への支援の取組み等を募集します。	認知症グループホームケア、認知症ケアと生活支援、家族との協働、若年性認知症への対応
2	住み慣れた場所で最期まで過ごせる仕組みとして、30報酬改定で介護、医療の連携が重視され、入退院支援、看護職員の配置や口腔衛生、栄養改善、生活機能向上に対して加算が強化されました。認知症グループホームにおける利用者の重度化予防、重度化対応、看取りの取組、家族や実践する職員への支援の取組み等を募集します。	重度化、看取りと家族支援、入退院支援を含む医科、歯科等の医療機関との連携の実践
3	新オレンジプランでは、地域に開かれたグループホームの役割として共用デイやショートステイ、認知症カフェ、情報提供、相談活動等の多様化、多機能化が求められています。また地域包括ケアシステムの取組が本格始動する中、「おまかせください！認知症グループホームに！！」と言える活動が必要です。そのような求められる取組みを募集します。	地域包括ケアシステム構築のための地域での連携、新オレンジプランと認知症グループホームの役割
4	介護事故や虐待、利用者の権利をないがしろにした事件が目につく昨今、30報酬改定においても身体拘束の適正化を図る報酬減額が打ち出されました。虐待・拘束などを排した利用者の権利擁護の取組み・家族支援、また相次ぐ高齢者施設の火災や、いつどこで起きるともしれない大規模災害への対策など、リスクマネジメントの取組みを募集します。	認知症の人と家族の権利擁護と虐待、拘束の防止、災害対策を含むリスクマネジメントのあり方
5	日本全体の人口減少に伴い、介護事業の要となる人材確保は益々大きな問題となっています。そうした情勢のなかでの人材確保、職員の育成、定着のための取組みや教育のあり方、外国人の受入れ等の取組、またロボットやICTの導入などによる業務負担軽減や作業効率改善の取組み等を募集します。	人材確保、人材育成と質の向上、職員リーダー層の育成、ICT、ロボット
6	その他(認知症グループホームの経営問題は「グループホーム経営を大いに語る場」で話し合います)	1～5に含まれない、各施設での特徴ある取組み、行事、レクリエーション等

「分科会発表・ポスターセッション申込書」および「抄録原稿用紙」を協会ホームページ(<http://ghkyo.or.jp>)大会サイトからダウンロードしていただき、大会実行委員会教育・研修担当宛て(groupmetaikai@gmail.com)までお申込みください。

※大会の参加申込み締切りは7月31日(火)となっております。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。(開催要項等詳細は協会ホームページ(<http://ghkyo.or.jp>)参照)

お問合せ 第20回記念 日本認知症グループホーム大会実行委員会事務局
〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル8F
Tel 03-5366-2157 FAX 03-5366-2158 担当 片山